

立地協定締結を終え、握手を交わすアオキの青木豊彦社長(右から3人目)と津村重光宮崎市長(同2人目)たち=17日、宮崎県庁

航空・宇宙関連の部品を開発する事務所「まいど技術センター」を宮崎市に設けることを明らかにしていた航空部品開発の「アオキ」(大阪府東大阪市)は十七日、同センター設置に関する立地協定を、宮崎県庁で宮崎市と締結した。

同センターは同市内の給食センター跡の用地と建物を取得して開設。今年四月から操業開始し、来年四月までに宮崎県内から三十人を雇用する予定。半導体製造装置の設計製作のほか、

「まいど」進出おおきに 技術センターアオキと宮崎市が協定

航空・宇宙関連のプログラムソフト開発などを手掛ける。初年度は売上高四億円を目指している。同社の青木豊彦社長は「宮崎の県民性が好きで進出を決めた。不況の今がチャンスとらえている。最大限がんばりたい」と話した。津村重光宮崎市長は「宮崎大にも協力してもらい、産学官の良い連携をつくりたい」と語った。

同社は、小型人工衛星「まいど1号」の企画・製造に携わった実績がある。

H20.2.18
第(2)面

人工衛星「まいど1号」開発

アオキ 宮崎市に新工場

4月操業

人工衛星「まいど1号」開発の中心となった金属加工のアオキ(東大阪市、青木豊彦社長)が宮崎市に新工場を建設することになり十七日、県庁で立地調印式があった。新工場は「まいど技術センター」として四月に操業し、主に半導体製造装置の設計、製作で事業展開。技術を蓄積し、将来的に航空宇宙機器向け部品を生産する計画だ。(7面に青木社長の二問一答)

同社によると、センターは宮崎市日ノ出町の空き工場(建物面積五百二十五平方メートル)を活用。三千三百万円を投じて機械設備を整備する。同社二カ所目の生産拠点として三十人を新規雇用し、分野の電機関連事業を手掛け、二〇一〇年に売上高四億円を目指す。

本県を進出先に選んだ理由について、記者会見した青木社長は「十年前から宮崎の企業と取引があり、人の温かさ、質の良さを感じていた。条件面で良い所はほかにもあるが、人を基準に考えた」と説明。従業員は県内で確保する予定で「宮崎の人たちの力を借るながら、県民に愛される夢会社をつくっていきたい」と話した。

同社は一九六一(昭和三十)年に創業し、従業員数三十五人。金属加工で高い技術力を誇り、米航空機大手ボーイングの航空部品を製造、〇八年九月期は売上高三億七百万円を計上した。青木社長は

東大阪市の町工場で開発した「まいど1号」の発起人で、「東大阪市モノづくり親善大使」として知られる。

アオキ宮崎市進出

不況逆手に事業拡大

青木社長一問一答

H20.2.18 日 (経済面)

「不況に中小企業はどう対処するべきか。」

青木 モノづくりは農産物につながるものがある。世界的な不況の中、モノが育つまで待つのも大切だ。農作物は肥やしや水をあげてすぐにできるわけでもなく、おいしく作るには技術もいる。良い人が寄ってこない良いモノはできない。宮崎の人に愛される「夢会社」

を宮崎の人と一緒につくりたい。

航空宇宙機器参入も

地元宮崎大とも一緒にできるものがあると思う。これは宮崎だからできることだ。

新分野となる電機事業の研究を進めていく。

青木 セロからやる。大阪の技術者が来ることもない。

「(新工場で)技術をほぐくみたい。仕事は自分たちでつくっていく。チャレンジだ」と将来の航空宇宙機器事業参入にも意欲を見せた。会見の一問一答は次の通り。

「新工場建設の目的は。」

青木 航空機の仕事をやり宇宙もやったが、電機事業は付加価値が高く前々からやりたいと思っていた。電機大手が調子が悪いと聞く今、チャンスが生まれるのではと考えた。半導体技術は航空宇宙に



宮崎市に新設する「まいと技術センター」の事業概要を説明するアオキの青木社長(右) 17日午後、県庁

衛星「まいど1号」のアオキ

4月、30人新規雇用へ

宮崎に工場進出

H2Aロケットで先月、種子島宇宙センターから打ち上げられた小型人工衛星「まいど1号」の製作発起人である青木豊彦氏が社長を務める航空機部品メーカー「アオキ」(大阪府東大阪市)が17日、4月から宮崎市に進出すると発表した。宮崎の新しい事業所は人工衛星にあやかり「まいど技術センター」と命名。半導体事業にも参入し、地元から約30人を雇用する方針。

この日、県庁で東国原英夫知事が立ち会いのもと、青木社長と宮崎市の津村重光市長が立地協定書に調印。誘致した県は「経済・雇用情勢が厳しいこの時期に進出してきて心強い」としている。

新工場は同市日ノ出町の給食工場跡地を利用。建物はほぼそのまま活用し、3300万円分の機械設備を入れて4月の操業を目指す。

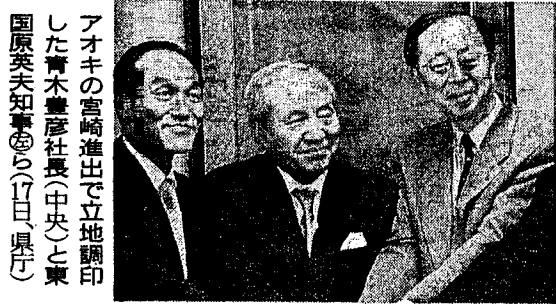
同社は従業員約40人の中小企業ながら、高い技術力で米

21.2.18 朝日

ログラムソフト開発にも進出したいとしている。

青木社長は宮崎に進出した理由として県の熱心な誘致があったことを挙げ、新分野の即戦力となる人材が容易に確保できると判断したためという。約30人は正社員として雇い、将来は事業を拡大して新卒者も採用したいという。

青木社長は「チームワークを大事にして県民に愛される会社になりたい」と話した。



アオキの宮崎進出で立地調印した青木豊彦社長(中央)と東国原英夫知事(左)ら(17日、県庁)

「まいど」宮崎進出

一月に打ち上げられた人工衛星「まいど1号」を開発した東大阪の中小企業を代表する航空機部品製造のアオキ(東大阪市)が宮崎に進出する。産業機器部品などを製造する事業所を宮崎市に開設することで十七日、市と立地調印した。四月から操業し、初年度四億円売り上げを目指す。

新事業所「まいど技術センター」は半導体関連装置の部品設計・製作、真空ポンプの点検・修理、航空関連ソフトの開発などを手がける計画。本社の精密加工分野に対して電気電子分野を中心に事業を開拓する。

給食工場だった建物に入居し、初期投資は機械設備などに三千三百万円。事業拡大に伴い追加投資も検討する。従業員は宮崎で約三十人を採用する予定。青木豊彦社長は宮崎進出について「他の場所でも良い誘致条件があったが、取引先もあり、元気で温かい県民性を感じた」と語った。

津村重光市長は調印式で「日本のモノ作りを代表する企業の立地は励みになる」と述べた。調印に立ち会った東国原英夫知事は理想と目標をまず設定する青木社長の考えに触れ「今求められている発想」と歓迎した。

新拠点、現地採用30人計画

定しており、2010年に年間4億円の生産を見込む。同センターの敷地面積は1518平方メートル。機械設備などに3300万円を投資する。2010年4月までに30人の新規雇用を予定している。

同社は航空機部品や金型などの製造事業者。青木社長は今年1月に打ち上げ成功した東大阪の中小企業による人工衛星打ち上げプロジェクトに発起人として関わった。

アオキ「まいど1号」技術センター 開業式 4月操業開始

【宮崎】アオキ(大阪府東大阪市、青木豊彦社長、06・6781・5141)は17日、電子機器・部品の設計、製作などを行う「まいど技術センター」を宮崎市に開設すると正式発表した。同日宮崎県庁で立地調印式を行った。4月の操業開始を予定している。

アオキ「まいど1号」技術センター 開業式 4月操業開始

【宮崎】アオキ(大阪府東大阪市、青木豊彦社長、06・6781・5141)は17日、電子機器・部品の設計、製作などを行う「まいど技術センター」を宮崎市に開設すると正式発表した。同日宮崎県庁で立地調印式を行った。4月の操業開始を予定している。